

平成25年3月議会

老人クラブを活性化せよ

最近老人クラブに入会にされない方が増えたと聴きます。

原因は、

- ・高齢化が進んだためか年齢層が広がり親子ほどの年齢差が生じている。
- ・老人クラブに入会するメリットが見いだせない。
- ・入会してすぐ状況が分からないのに役員になることが多く不安。
- ・役員になると例会に出ても多忙で楽しめず負担が大きい。
- ・老人クラブに入って、年寄り扱いされるのが心外だ。

他にも原因はあると思いますが、このようなことが考えられます。老人クラブの入会は強制されるものではありませんが、新規の入会が進まないと、このままでは老人クラブの存続が危惧されます。

老人クラブのメリットをだすために、老人クラブ会員のバスや村内施設利用において無料化や割引など何か入会する特典をつけられないか。又、役員のあり方や負担を無くすことや、例会以外でも施設をクラブ員へ開放するなど、老人クラブ活性化のために出来ないか検討願います。

私もそんなに遠くない将来に入会してお世話になると思いますので安心して参加できる、キラリと光る老人クラブになってほしいと願います。

答弁者 村長

老人クラブ活動に対し適切な援助に努めていく

就職の増加や近所付き合いの希薄化などにより、老人クラブへの入会者が減少している中、現在、飛島村ふれあいの郷内の「敬老センター」では、60歳以上の方または老人クラブの会員の方々に対して、生活・健康の相談に応ずるとともに、機能回復訓練の実施、研修会・講習会及び教養の向上、趣味娯楽のための便宜を供与して、また、健康の保持増進のため「ふれあい温泉」もご利用いただいています。

バスや村内施設利用料金の設定については、採算を度外視して、低額に抑えてあり、割引については、考えていません。

なお、「老人クラブ」は、地域を基盤とする高齢者の自主的な組織でありますので、会員のニーズに基づき、役員でご協議のうえ事業を推進していただき、村といたしましては、高齢者を見守るネットワークの担い手になるなど、その活動に対して適切に援助をするよう努めていきます。

南部体育館のトイレを洋式にせよ

一般家庭において洋式トイレの設置が進んでおり、和式トイレがないところが多いのではないかと思います。特に、小中学生では和式トイレになじめない子が多いようです。

南部体育館のトイレは全て和式です。体育館の利用状況をみると、ほぼ小学生児童の利用が大半で、親や指導者からトイレに困ったという声が聴かれます。よって、南部体育館に洋式トイレの設置をお願いします。

平成23年9月議会において洋式トイレの設置をお願いした時に「利用頻度の多い箇所から順次設置を考えている。」との回答でありました。

その後の設置は当然進んでいるものと思いますが、最近の設置状況を報告願います。

今後、設置する予定かお聞かせください。今どき、トイレに行って洋式が一つも無いというのは時代遅れでキラリと光る村と言うにはあまりにもお粗末です。

答弁者 村長

再度、検討をしていく

南部体育館の現在の利用状況は、本村が支援するミニバスケットボールスポーツ少年団の利用

が主体となっており、利用状況は毎週2日程度であるため、洋式便器への改修の時期を考慮していましたが、要望を踏まえて改修に向けて取り組んでいきます。

なお、総合体育館については、1階に障害者用の洋式トイレと女子用トイレに1カ所の計2カ所設置してあります。

中央公民館棟には、多目的トイレとして表示をし、広く一般の方々に利用いただける洋式のトイレが各階に設置してあります。

また、先回ご質問以後、役場庁舎内のトイレに洋式便器の設置を検討しましたが、洋式便器に切替えるには、スペースが狭いため、変更することは難しいと判断をしていますが、再度、検討をさせていただきます。

改修のいかに問わず、中央公民館同様に障害者用トイレの利用方法について一般の来庁者の方々も利用できるよう工夫する検討をしていきます。

村内業者への発注状況は

平成23年12月議会の一般質問において、地元企業を優先的に活用するよう要望したところ村長の回答は「村内業者の育成を目的として指名選定している」でした。

- ・その後の地元企業への発注状況。
- ・育成を目的とは、どのような育成をしてどんな効果があったか。

についてお尋ねします。

入札には5社以上で行うと聞いていますが、ある市町村では地元で業者がある場合は、その中だけで入札をするようです。

飛島も早くそのようになれば飛島村全体の活性化にもつながります。現状は村の予算の多くが村内から流出しているのは残念でなりません。

また、今回の避難所計画はどこが受注するかは大きな関心事です。村内企業には何もなかったということがないようにお願いします。

答弁者 村長

受注可能な案件については機会の確保をしている

平成24年4月以降の発注状況は、入札件数は81件で、内訳としては、工事31件、委託37件、物品購入13件です。うち、入札81件中、地元業者の指名選定は30件で、40%弱です。

また、育成を目的とした効果は、指名業者として選定され、入札等で落札、受注されていることから、地元業者の公共工事に関して、技術の向上が図られていると共に、地域経済の振興と活性化という観点においても向上が図られていると考えています。

平成23年12月議会において、答弁しましたが、今後においても、引き続き、受注可能な案件については、指名業者の選定並びに受注の機会の確保をしていきます。

線量計の使用状況を示せ

あの悲惨な、東日本大震災が発生してから2年がたちました。あの時のことは今でも昨日のことのように鮮明に覚えています。釣り船に乗っているような、気持ち悪い揺れが長く続いたのは忘れることが出来ません。

被災地の方々はいまだに避難所生活が続いており、早く普通の生活に戻れることを願うばかりです。

特に、放射能の汚染地区の方々はいつ帰れるかも分からず、場所によっては、数十年は帰れないのではと言われ、気の毒でなりません。

飛島は被災地にボランティアを派遣するのを機に線量計を購入しました。

飛島のホームページを見ると昨年5月と11月に役場と公民館分館2カ所の計測結果が出ています。

昨年、3月議会の一般質問で、学校や保育園・保育所・通学路の他に温泉など公共施設や地域の

集会場など人が集まる施設、なるべく多くの場所を観測して安全を確認し、村民を安心させてくださいと要望しました。

- ・公表されている2カ所以外でも測定しているのか。
- ・測定しているならその結果は。
- ・今後2カ所以外も測定するのか

お尋ねします。

答弁者 村長

村内2カ所の測定結果をホームページで公表している

線量計は平成23年度末に購入し、平成24年度から年2回役場駐車場と臨海部の公民館分館駐車場で、それぞれ地上10センチメートルと1メートルの高さで測定をしています。測定結果については、ホームページに掲載していますが、他の測定箇所については、昨年4月下旬に村内の公園や学園等住民が集まる施設を10カ所測定しました。

測定結果は、0.06～0.08マイクロシーベルトでした。その結果から判断して、村内で測定する2カ所を決め、5月と11月に測定して測定結果を公表しています。なお、状況に応じ2カ所以外で測定することは可能ですので、情報をいただければ対応します。

また、役場には購入した線量計と簡易線量計がありますので、ご要望があれば貸し出しは可能とされています。